



Corporate Communication Book

 日本山村硝子株式会社

**受け継がれてきた人と環境のための技術を通して、
グループ一丸となって持続可能な未来づくりに挑戦し続けます。**

当社は、高度成長期の消費が美德の時代からガラスびんの環境特性に着目し、「循環型社会の実現に貢献する」精神を大切にしてきました。近年、海洋汚染をはじめとする環境問題の深刻化を背景に、循環型社会を目指す機運が世界中で高まっています。当社グループとしても、もう一度原点に立ち返り、当社の製品・サービスを必要とくださるステークホルダーの皆様に最大限貢献することを徹底してまいります。

人々のより快適な暮らしと地球環境の未来のために、当社ではグループ経営ビジョンを「100年先も必要とされる会社」と決めました。長きにわたり受け継がれてきた人と環境への想いに重点を置きながら、これからも社会から必要とされる会社であり続けるため、改めてグループ一丸となって持続可能な未来づくりに挑み続けます。今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役 社長執行役員

山村幸治

カンパニーと研究開発センターの紹介

ガラスびんカンパニー



特長・特性

- 国内No.1シェア
- 充実の開発サポート
- 国内最大級の生産体制

国内ガラスびん業界シェアNo.1の当社は、酒類・食品・調味料・ドリンクなど、身の回りにある様々なガラスびんを製造しています。国内最大級となる、グループで4拠点・年間35万トン以上の生産能力を有し、創業100年を超える確かな実績と高い技術力で高品質の製品をご提供します。容器でありながら芸術性も併せ持ち、3Rを実現するガラスびんで、お客様のイメージ・ご希望を実現できるよう、様々な開発サポート体制をご用意しています。



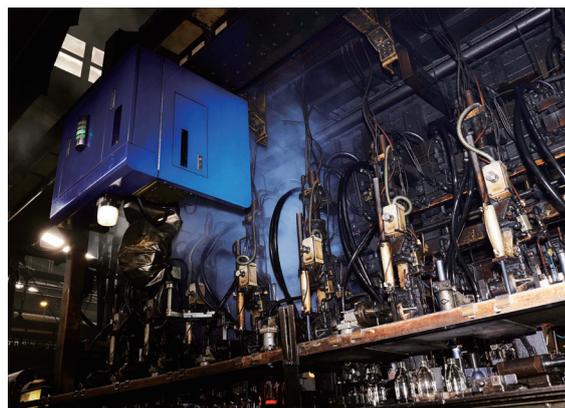
エンジニアリングカンパニー



特長・特性

- 国内唯一の製びん機メーカー
- 飲料・食品製造に関する多彩な設備を製造
- 最適な設備&レイアウトを提案
- 相談できる専門メーカー

国内ガラスびんメーカーのニーズにマッチした製びん機を製造し、国内シェアは36%を誇ります。ガラスびん製造で培ったノウハウを活かし、容器にダメージを与えない搬送や、複雑な形状の容器を取り扱うための充填包装装置をご提案します。お客様の生産方法や運用にマッチした装置・レイアウトでも生産性の向上に貢献。業界を問わず、お客様が抱える大小様々な悩みを解決いたします。



プラスチックカンパニー

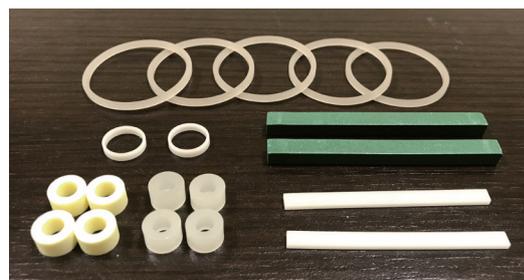


特長・特性

- お客様から高評価をいただいている耐熱TENキャップ
- 信頼される品質と安定した供給体制
- キャップリサイクルシステムの構築など、環境貢献への強い取り組み
- 海外での生産実績と豊富な経験値

プラスチック容器の軽量化、高性能化など新たな可能性へのチャレンジを続けています。特に環境に貢献できる開発に注力し、新たな価値の提供を目指しています。また、社会的な課題や、ペインポイントを解決できるような新製品開発、新規分野参入への挑戦にも力を入れています。海外展開では、中国のプラスチックキャップ製造・販売子会社の事業規模拡大を中心に引き続き取り組んでいきます。多くのビジネスパートナーとの関係をしっかりと構築し、製品の安定した供給を実現していきます。

ニューガラスカンパニー



特長・特性

- 顧客ニーズに応える開発力
- スピーディーな製品化を実現する技術力
- グループ内連携の提案力

エレクトロニクス、エネルギー、自動車関連など幅広い分野で製品が使用されています。未来社会を支える基盤技術の開発を行いながら、お客様の多種多様なご要望に誠実に耳を傾け、ニーズにお応えできる材料開発をしています。様々な用途での市場化経験で確立した独自の技術・ノウハウで、ガラスの持つ焼結・封止・接着・耐熱等の性能をお客様のラインで引き出します。全部門が一体となり、最適な製品・技術をスピーディーかつ的確にご提案いたします。グループ内で連携して新たな素材・部材の開発や生産技術の改良も進めています。

研究開発センター



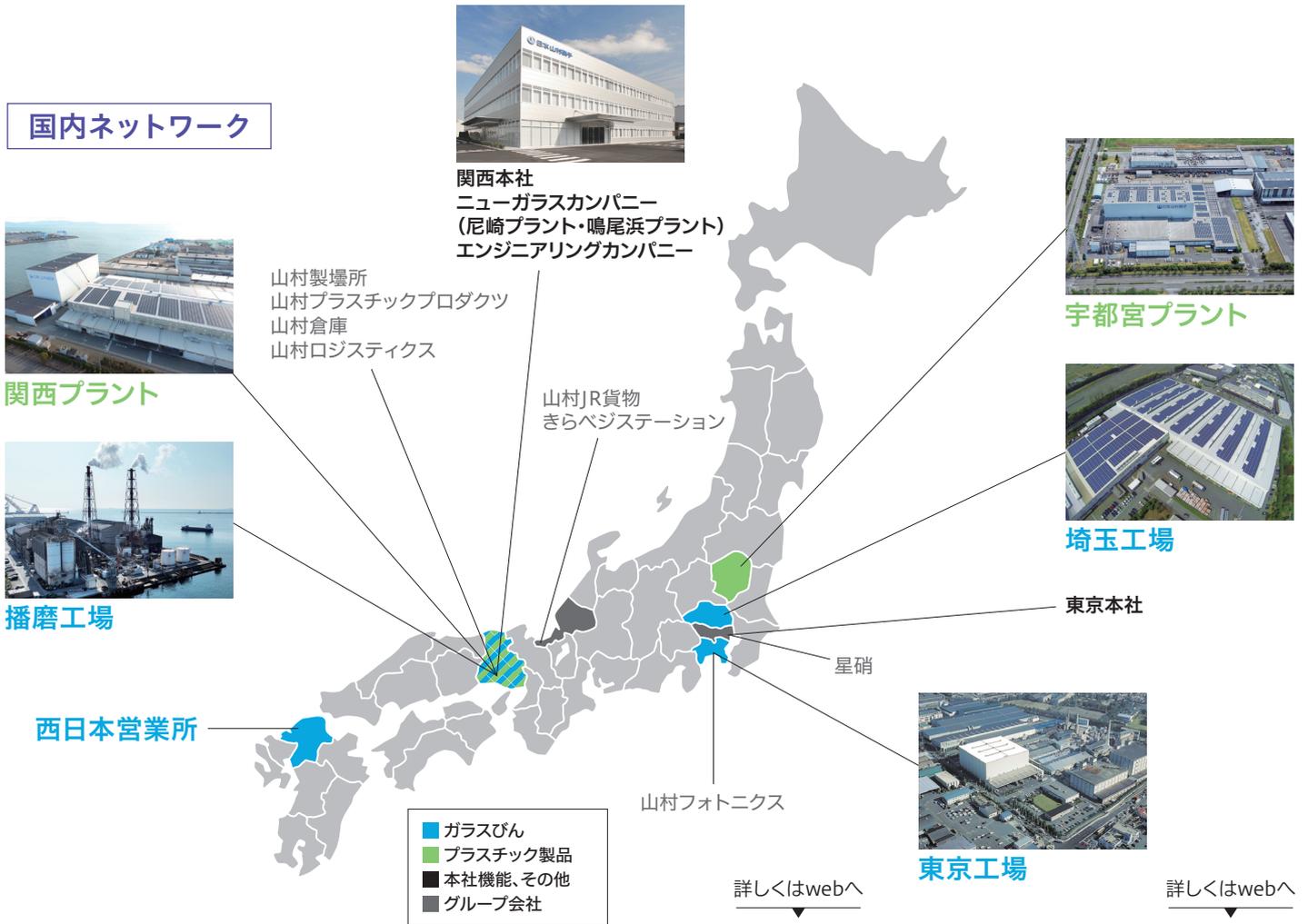
特長・特性

- 枠にとらわれない自由な発想
- マーケティング観点から開発テーマの選定
- 未来社会につながる課題解決型の研究開発

2007年の設立以来、既存事業の枠を超えて自由な発想で研究開発に取り組み、新規事業へと展開しています。開発の基本コンセプトは「安心・安全」「環境」「サステナブル」。開発テーマの一つである植物工場事業では、完全制御型植物工場としては第一号となる機能性表示食品の届け出を実現しました。2023年には植物工場事業を担う山村J R貨物きらベジステーション(株)の工場を福井県に竣工。今後も社会の様々な問題を解決できること、豊かな未来社会の構築に貢献するものづくりにこだわって研究開発を進めていきます。

ネットワーク

国内ネットワーク



事業所:<https://www.yamamura.co.jp/company/branch.html>

グループ会社:<https://www.yamamura.co.jp/company/group.html>

主要海外ネットワーク



<https://www.yamamura.co.jp/company/group.html>

ESG情報

Environment
Social
Governance

詳しくはwebへ



<https://www.yamamura.co.jp/csr/>

環境への取り組み

当社では創業当初より環境に対する意識を持ち、持続可能な開発目標 (SDGs) につながる活動を取り入れてきました。

具体的には、「省エネルギー・省資源の推進」、「環境負荷低減の推進」、「地球温暖化対策・CO₂排出量低減の推進」、「持続可能な社会実現への3R(リデュース・リユース・リサイクル)活動の推進」、「廃棄物の減量化及び再資源化の推進」、「環境改善に寄与する製品開発の推進」、「環境に配慮した製造設備、機器の開発」、「地球環境活動への参加」に取り組んでいます。

今後も社会からの期待や要請を捉え、社会課題の解決に貢献できる活動を推進していきます。

社会への取り組み

当社は創業以来、循環型社会の実現と持続的成長を目指して事業に取り組んできました。社会環境が大きく変化している中、さまざまな社会問題の解決に寄与し持続可能性を考慮しなくてはならない時代です。社会の要求に応える、社会の役に立つことを意識することで当社は持続的成長を果たせると考えています。当社では新興国におけるガラス容器製造技術の向上とガラス容器市場の活性化に貢献する技術支援や、子どもたちに向けた環境学習支援、その他CSR活動に継続的に取り組んでいます。

ガバナンスについて

当社は、コーポレート・ガバナンスを経営上の重要課題と位置づけています。企業理念などに基づき、経営の透明性・公正性を確保した上で、迅速・果敢な意思決定を行うことで、持続的な成長および中長期的な企業価値向上を図るとともに、株主をはじめお客様・取引先・従業員などの各ステークホルダーの信頼に応える経営を行っていくことを、基本的な考え方としています。

取締役会の監督機能のさらなる向上、審議の一層の充実および経営の意思決定の迅速化を図り、コーポレート・ガバナンスの実効性をより高めていきます。

従業員のための取り組み

「事業は人なり」を基本理念のひとつに掲げる当社では、社員一人ひとりが個性と能力を発揮できる、働きがいのある職場づくりを目指しています。年齢や等級別に実施する階層別研修のほか、選抜型研修や自己啓発支援などを行っています。また、主体的なキャリア開発や成長につながる機会・場を提供するため、様々な制度を整えています。全社員が個性と能力を十分に発揮し、仕事と家庭の両立ができるよう雇用環境の整備を行っています。

人権に関する取り組み

人権を尊重し、その責任を果たしていく指針として、「山村グループ人権方針」を制定しています。グローバルに展開する事業活動の中で影響を受ける全ての人の人権が守られなければならないことをよく理解し、人権尊重の責任を果たすように努力いたします。

人権研修会の実施や人権に関する相談の受け付け、外部の人権団体との協力にも取り組んでいます。

会社概要(2024年3月31日現在)

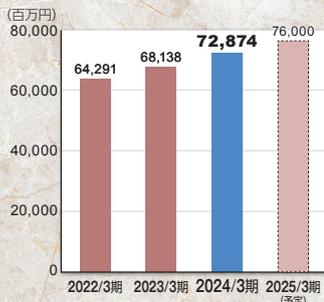
商号	日本山村硝子株式会社(Nihon Yamamura Glass Co.,Ltd.)	創業	1914年4月5日
本社所在地	関西本社 兵庫県尼崎市西向島町15-1 電話06-4300-6000(代表)	設立	1941年12月11日
	東京本社 東京都新宿区西新宿6-14-1 新宿グリーンタワービル20階 電話03-3349-7200(代表)	資本金	140億円
		従業員数	750名
		上場証券取引所	東京証券取引所(スタンダード市場)
		会計監査人	有限責任 あずさ監査法人

2024年3月期

連結業績

売上高

72,874百万円



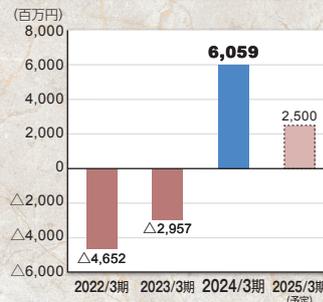
営業利益

4,452百万円



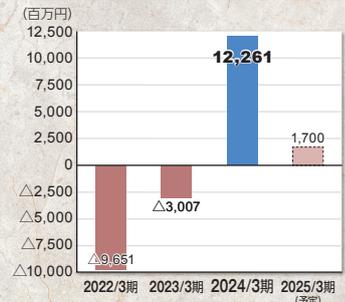
経常利益

6,059百万円



親会社株主に帰属する
当期純利益

12,261百万円



沿革

- 1897年 山村商店 六甲山麓砕砂採掘販売を経営
- 1914年 兵庫県西宮市において山村製壜所として創業
- 1955年 株式会社に改組し、山村硝子株式会社として発足
- 1960年 プラスチック容器工場建設、製造開始
機工部(現:エンジニアリングカンパニー)開設
- 1961年 神奈川県相模原市に東京工場建設、操業開始
- 1970年 東京・大阪証券取引所 市場第一部上場
- 1973年 リサイクル事業開始
- 1980年 兵庫県加古郡播磨町に播磨工場建設、操業開始
- 1987年 兵庫県西宮市にニューガラス研究所を新設
兵庫県加古郡播磨町に関西工場(プラスチック)建設、操業開始
- 1989年 広島硝子工業株式会社と合併
- 1990年 兵庫県西宮市にニューガラス開発プラント(現:鳴尾浜プラント)建設、操業開始
- 1991年 フィリピンにサンミゲル山村アジア社設立
- 1995年 栃木県宇都宮市に宇都宮工場(プラスチック)建設、操業開始
- 1998年 日本硝子株式会社と合併、日本山村硝子株式会社として発足
- 2000年 兵庫県尼崎市に尼崎プラント(ニューガラス)建設、操業開始
- 2004年 中国に展誠(蘇州)塑料製品有限公司設立
- 2008年 サンミゲル山村パッケージング社へ資本参加
山硝(上海)商貿有限公司を設立
- 2009年 兵庫県尼崎市に本社移転 二本社体制スタート
タイに山村インターナショナル・タイランド社設立
- 2022年 東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京証券取引所の市場第一部からスタンダード市場に移行

基本哲学(フィロソフィ)

●基本理念

基本理念は、山村グループの考え方や行動を支えるもので、企業理念の中心となるものです。

事業は人なり

商いの基は品質にあり

革新なくして未来なし

●存在意義

人と技術の力で、豊かな社会と快適な生活をつくりだす

●コーポレート・メッセージ

Heart & Technology

人を信じる心を
大切に「商いの心」

より良いものを
生み出してゆく「匠の技」

グループ経営ビジョン

「100年先も必要とされる会社」

*ずっと未来も、山村グループに関わる全ての人や社会の役に立ち、必要とされ続けるグループでありたい。

廃棄もみ殻をガラス原料に使用したガラスびんを開発

当社は連結子会社である株式会社山村製壔所と共同で、ガラス原料に使用されるシリカ(珪砂)の代替原料として、もみ殻を使用したガラスびんの生産に成功しました。

もみ殻はお米の脱穀工程で年間200万トン以上発生し、その多くは廃棄されています。

本技術はガラス原料の一部に、廃棄物とされていた再生原料(もみ殻)を使うことで、ガラスびん製造と使用におけるサーキュラーエコノミー実現への貢献が期待されます。

また、当社関西本社と山村製壔所のある兵庫県には、多くの酒造、日本酒の原料であるお米の名産地、原料製造所およびカレット事業者が存在します。したがって、環境省や農林水産省が全国的展開を推進する「地産地消」や「地域循環共生圏の創造」などの政策への貢献が期待されます。

山村グループは、「100年先も必要とされる会社」というグループ経営ビジョンを掲げ、ずっと未来も、山村グループに関わる全ての人や社会の役に立ち、必要とされ続けるグループでありたいと考えております。

今後も社会の環境課題の解決に貢献する製品の開発に取り組んでまいります。



第20回ガラスびんアワード 2024

当社および山村製壔所のガラスびんを使用した商品が受賞

「ガラスびんアワード」は、日本ガラスびん協会が主催する業界最大級のイベントです。1年間(2022年12月～2023年12月)に発売されたガラスびん商品を、デザイン性・機能性・環境性等、様々な視点から審査し、表彰します。

第20回目を迎えた今回は、当社のガラスびんを使用した商品が富永美樹賞および日本ガラスびん協会特別賞を、山村製壔所のガラスびんを使用した商品が最優秀賞を受賞いたしました。



株式会社一創 様
TSUCHI-YA
純米大吟醸 | 美硝
製造: 山村製壔所



有限会社戸田乳業 様
ホエイのきもち
製造: 日本山村硝子



中野BC株式会社 様
パインアメサワの素
製造: 日本山村硝子



キャップリサイクリングを通じた循環型社会の実現に向けた取組

当社プラスチックカンパニーでは、【REBORN CAP PROJECT】を立上げ、ペットボトルキャップ(以下、キャップ)の水平リサイクルのプラットフォーム構築に向けた取り組みを行っています。

①J-CEP「ペットボトルキャップ回収・再生プロジェクト」活動に参画

J-CEP(※)では2022年10月13日～2023年12月13日の期間、『ペットボトルキャップ回収・再生プロジェクト』活動を行い、当社も参画しました。神戸市が展開する「資源回収ステーション」に市民から使用済みキャップを集め、参画企業で「爪切り」や「プチプチ」などに再生しました。回収～製品再生のスキーム構築を目指し、一連のプロセス実験を実施しながら試作品を製作して、製品への利用可能性を検討しました。

※(J-CEP) 持続可能な社会の実現を目指す企業等が、住民・行政・大学等と連携して、サーキュラーエコノミーの推進に取り組む新事業共創パートナーシップ

②ペットボトルキャップの分別回収における人の行動変容を促す共同研究

当社と近畿大学は、ペットボトルキャップの分別回収における人の行動変容を促す共同研究を開始しました。今回の共同開発では、ペットボトルとキャップの分別廃棄を促進し、キャップの回収率向上を目的としています。キャップを分別する行動変容を促すアイデアを創出し、「キャップ回収BOX」のプロトタイプを作成しました。今後、実証実験と解析を進め、完成度を高めてまいります。

